

大阪学芸中等教育学校 「学問探究団 RYS」 活動レポート

Episode18 「東日本大震災 2 年をむかえて考える」

関西大学社会安全学部 高槻ミュージズキャンパス

2013 年 3 月 30 日 (土) 進路指導部

3 月 30 日、RYS 団員 9 名は関西大学社会安全学部のある高槻ミュージズキャンパスを訪れました。高槻ミュージズキャンパスは、高槻市が提唱する「安心・安全のまちづくり」に貢献するため、生涯学習センターを始め図書館、防災用備蓄庫などを備えた「社会貢献型都市キャンパス」として、3 年前に開校されました。



社会安全学部のような「安全」の問題を中心に据えた学部は、日本では関西大学社会安全学部がはじめてであり、東日本大震災をはじめ、世界規模で様々な災害・事故が頻発

している現代社会において多くの注目を集めています。災害のメカニズムなら工学部で学べばよいが、その先の「防災」そして「安全安心な社会」について学び、復興のためにどのように社会が支援していくのか、それらを考える場所が社会安全学部です。今回はその学部入学予定者(つまり大学新 1 回生)に対するシンポジウムに、特別に参加させていただける貴重な機会を得ました。



キャンパス見学

大学に到着後、まずは食堂で昼食をとり、その後キャンパスを見学させていただきました。新しくできた校舎というのもあり、きれいな会議室や図書館、教授の部屋に団員達は喜んでいました。また、2 階には安全ミュージアムがあり、防災グッズや津波実験装置の他に踏切の非常ボタンも展示してありました。身の回りの「安全」に関すること全てが研究対象なのではないでしょうか。



高槻防災マップ



トラックと衝突した車の運転席部分



炊出し用の大釜
570人分が作れる



津波発生装置



踏切と
非常ボタン



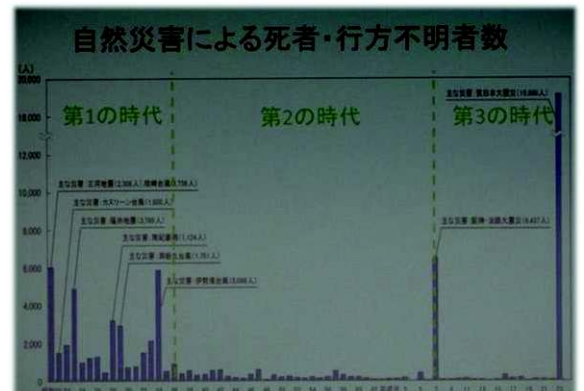
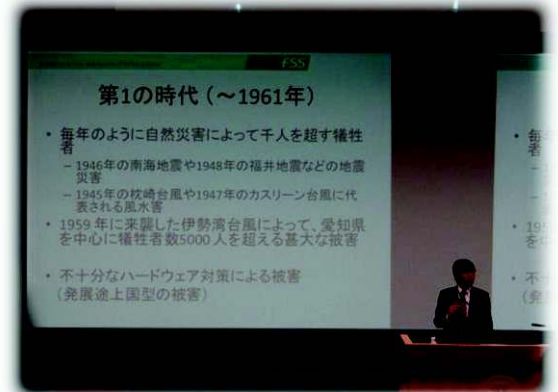
「正解」のない問題

今回聞いた様々なお話の中で特に印象に残った、城下助教の『「正解」のない問題』について紹介します。

過去70年の自然災害による死者の数字を見ると、大きく3つの時代に分けることができます。第1の時代は昭和36年までで、毎年起こる台風や地震などの自然災害による犠牲者が千人を超えていました。

しかし昭和34年の伊勢湾台風を機に災害対策基本法が制定され、国家レベルで防災対策をした結果、犠牲者を減らすことができました。これが第2の時代です。この第2の時代は「正解」のある問題について考えていました。つまり、防災対策の強化や、緊急事態に対する措置を定めたのです。

第3の時代は阪神・淡路大震災や東日本大震災が起こった現代です。これらは想定をはるかに超える広域災害となり、災害対策基本法が抱える更なる問題点が明らかになりました。つまり「正解」のない問題に直面したのです。



実際にこんな問題があったそうです。

災害発生から数時間経過、避難所には 3000 人が避難しているが、今ある食糧は 2000 食です。これ以降の食糧確保の見通しは今のところありません。このときあなたは 2000 食を配りますか？
あなたが食糧担当委員だったら、どうしますか？

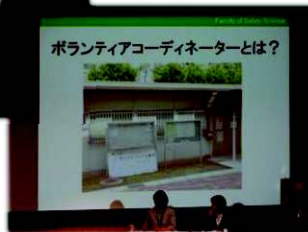
「正解」のある問題に対し答えを出し対策をとることは簡単だが、「正解」のない問題の答えを見つけるのは大変なことです。それは時代や立場、場所、社会によって答えが異なるからです。

最後に城下助教は強くメッセージを残してくれました。

「災害は待ってはくれません。正解があろうが、もう少しだろうが災害は突然やってきます。

そして今の対策が 10 年後に通用するとは限りません。1 回決めたらそれでよしではないのです。

私達は**考え続けなければならないのです。**」



おわりに

シンポジウムで先生方がおっしゃっていましたが、学生のうちから様々な視点を持ち、情報を選ぶ目を養うことが大事だと思いました。そして“考え続ける”こと。これらはどの学部に進んでも、どんな社会人になっても大切なことだと思います。また、社会安全について学ぶ人が増える日本の今後の安全について期待と関心が高まりました。

団員の感想



- ・社会安全の内容は幅が広い！（5年男子）
- ・私立の大学だけあって設備がきれいで充実していた。（3年男子）
- ・今回聞いたことを少しでも、毎日の生活に活かそうと思う。（5年男子）
- ・図書館充実してた！ずっとおりたくなるような雰囲気でした。（3年女子）
- ・安全ミュージアムでは、普段押すことがない踏切の警報ボタンを押すことができたのがよかった。（3年女子、5年男子）
- ・知らないことたくさん→当たり前→知っていこうとする姿勢が大切。（3年女子）
- ・今回のディスカッションのように、様々な立場の人々から直接話を聞くことができるのは貴重だと思いました。（5年男子）
- ・答えが一つじゃない問題には“考え続ける”ことが大切だという言葉が印象に残りました。（5年男子）
- ・社会安全は自分だけでなく、他の人のために対策や行動していなければならないし、片方の意見だけに偏って考えることはダメなことだなあと感じました。（5年男子）